

令和7年度コミュニティ・スクール推進研修（小・中）③実施報告

実施日：令和7（2025）年11月13日

本研修では、教職員と地域住民が学校運営に協力・参画することで、教育に対する課題や目標を共有し、一体となって児童・生徒を育む学校づくりを推進するために必要な知識や技術の習得を図ります。第3回は、33名の方が御参加くださいました。

○ 講話・事例研究「学校運営協議会運営の実際～学校運営協議会の効果的な運営に向けて～」

明星大学教育学部教育学科 特任教授 朝倉 美由紀 氏

はじめに、学校運営協議会の目的について確認がありました。多様な人々が集まっているものの、共通する視点は「目の前にいる子どもたちをどう育てるか」であることが強調されました。さらに、取組を持続可能にするために、行政・学校・委員それぞれの役割について説明がありました。

続いて、熟議の様子を写した写真をもとに、受講者から「子どもが説明をしている」「人数が多いので、教員も参加しているのではないか」といった気付きが出され、これを踏まえて、朝倉氏から学校運営協議会の内容や年間の流れについて解説がありました。

コミュニティ・スクールの理念である「地域とともにある学校」を実現するためには、地域の人々と目標やビジョンを共有することが不可欠です。特に、「学校の課題」や「目指す児童生徒像」を地域と共有することの重要性が確認されました。

また、協議や熟議の事例を通じて、テーマ設定が学校や地域での取組にうまくつながった例や、改善を要した例が紹介されました。さらに、「地域の方との行事をつくること」が学校運営協議会の役割であるという誤解に触れ、学校経営において「役割を果たした取組⇒なくす」「着眼点を変える取組⇒かえる」「整理する取組⇒へらす」の3つを検証することの重要性が示されました。

受講者にとって、学校運営協議会を効果的に運営するためのポイントや進め方を改めて考えることで、その役割を再確認し、話合いの内容や工夫について理解を深める機会になりました。



★ 受講者の声 ★

○多くの事例を紹介していただき、大変参考になりました。近隣の学校では、中学校区で学校運営協議会を運営しているところもありますが、講話の最後にメリット・デメリットについても伺いすることができました。今後の運営に生かしていきたいと思います。

○本日学んだ内容を、研修等で各学校や地域教育コーディネーター、学校運営協議委員に広めなければいけないと感じました。

○学校運営協議会、行政の果たすべき役割について再確認することができました。本日の研修内容を市の施策等に生かしていきたいです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp